

3-2. ふるさと体験学習協会（岩手県久慈市）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

久慈市（ふるさと体験学習協会）は、これまで教育旅行受け入れの体制整備に努め、平成 17 年度から県外の中高校生を中心に受け入れを行ってきた。教育旅行受入時の体験活動としては、久慈市の自然、伝統、文化等を活用した各種体験プログラムで対応しており、そのプログラムはエコツーリズムに通じるものと思われる。

今後は、教育旅行受入体制を活用しながら、エコツーリズムにも取り組みたいと考えている。また、同時にジオツーリズムにも取り組んでいるため、これらを有機的に関連付けさせ、最終的に交流人口の拡大及び地域の活性化につなげたい。



(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 24 年 11 月 21 日（水）～平成 24 年 11 月 22 日（木）
場 所	久慈市（各種体験フィールド、体験受入施設、宿泊施設）
アドバイザー	鹿児島大学 名誉教授 大木 公彦 氏
参加者	ふるさと体験学習協会職員、久慈市産業振興部交流促進課職員、久慈市産業振興部商工観光課職員、久慈琥珀博物館職員、宿泊施設社員、体験受入先の方々 計 10 名
スケジュール・方法	<p>【1 日目】 沿岸部体験フィールドの視察（トレッキング、サップ船クルーズ、琥珀採掘場）</p> <p>【2 日目】 農山村部体験フィールドの視察（洞窟探検、農業体験、そば打ち体験、木皮工芸等）</p> <p>※現在取り組んでいる教育旅行受入の体験フィールド及び体験受入施設を実際に見ていただき、エコツーリズムの関連性を見出し、具体的にエコツーリズムとしてどのような取組をすべきか助言をいただく。</p>



(3) アドバイスの内容

●エコツーリズムの意識啓発、方法等について

- ・ 地域住民にエコツーリズムの意識を根付かせるためには、まずは市内の生徒に、自分の地域の素晴らしさを理解させること。

●ガイド人材育成について

- ・ 博物館の学芸員や解説員と連携して、勉強会を重ねること。
- ・ 自治体、学校、NPO、企業、商工会議所等の連携も必要であること。

●環境教育について

- ・ 成果をあげている他自治体を参考にし、実際に担当者を招くこと。

●まとめ（交流人口、地域活性化について）

- ・ 市内の子どもたちが自分の地域の素晴らしさを知り、愛するところから出発し、先生や親を取り込むことが過疎化の歯止めにもなる。
- ・ 地域の活性化には若い力が必要であるため、市内の子どもたちに、体験学習を通じて「人は大地に生かされている」ことを知ってもらい、地域に住み、地域の大きな力となってもらう。

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 改めて地域の良い点について認識することができた
- ・ 今後の具体的な取組方法を認識することができた
- ・ 誘客にあたっての当地域の PR ポイントが明確となった

●今後の期待される効果

- ・ 当地域のエコツーリズムを活用した取組についての、すすむべき方向が見えてきた。まずは、今回のアドバイス内容を広く関係者で共有することからはじめ、1つ1つの課題について、アドバイスいただいた解決策で乗り越えたいと考えている。
- ・ 今回のアドバイスによって、灯台下暗しで中々気付かなかった点や不要な固定観念があったこと等、自分たちの意識の改革にもつながった。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・ 体験学習の中に「宮沢賢治」の自然感との接点をアピールする手法。
- ・ 石灰岩、海洋性玄武岩、海洋底堆積物、陸源物質が混ざった付加体堆積物や琥珀を含む恐竜時代の地層が隆起し、風化浸食されることによって粘土鉱物が生成され、多くのミネラルが地下水に溶け込み、植物が根から吸収して素晴らしい久慈市の森や農作物を作り、その森を育むミネラル豊富な土壌（腐葉土）が雨で流され、川から海に流れ込むことで磯焼がなくなり、海藻が豊かな海を育み、多様な海産物を私たちが得ることができること。

●その他感想

- ・ アドバイザーの大木先生には、大変感謝している。我々が目指す「交流人口の拡大」、「地域活性化」を十分ご理解いただき、その上で、全国の事例を交えながら、適切なアドバイスをいただいた。短期間ではあったが、先生とともに地方の抱える悩みや地方の素晴らしさ、可能性について深く共有することができたと感じている。



内間木洞



侍石

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

鹿児島大学 名誉教授 大木 公彦 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

久慈市、ふるさと体験学習協会の「いわて久慈-こころの体験」の取組は、子どもたちが自然豊かな農村、山村、漁村に宿泊し、土地の人々との心のふれあいを通じて、自然と人との共生の素晴らしさを学ぶことにあり、大変魅力あるものになっています。特に、子どもたちが農山漁村に民泊し、地域の住民と交流する取組は素晴らしいと思います。また体験プログラムの種類が豊富で、目的に掲げている「参加する児童生徒等の新たな発見や感動する心、柔らかな感性や社会観を養い、生きる力を育む」ことができる内容だと思います。今後を見据え、ふるさと体験学習協会の組織を強化し、インストラクター等の人員確保と人材育成、新たな資源を活用した体験プログラムの調査と整備、農山漁村の民泊受入先の拡大に努力しているようです。その中で震災発生直後に首都圏の学校のキャンセルが相次いだそうで、平成 23 年度の受入人数が大幅に減少したことから、風評被害を払拭し、誘客に努力する必要性を感じているようです。

●アドバイス（講義等）の概要

11 月 21 日、22 日に、沿岸部、農山村部のふるさと体験学習のフィールドを視察し、それぞれのフィールドで意見を述べさせていただきました。視察後、21 日は久慈市役所で打ち合わせ及びアドバイスを、22 日はエコトレッキング宿泊施設の平庭山荘で鹿児島市の取組等についてお話をさせていただきました。

久慈市が行っている素晴らしい体験学習に、更に多くの学校が参加していただくためには、1) ロコミが重要で、そのためには体験学習プログラムの質の高さが求められること、2) それぞれの体験学習プログラムがどのようにつながっているのか、受入側の皆さんがしっかりとその理念を共有すること、3) 大地の成り立ちや自然の摂理を子どもたちに理解させること、等が大切であることを述べさせていただきました。

短期的な取組として、琥珀や恐竜等の化石を産する久慈層群の白亜紀の地層をアピールすることを挙げさせていただきました。久慈層群は西日本に分布する同時代の地層に比べて固結度が低く、子どもでもアイスピックで化石を採集することができます。すでに恐竜の骨盤や歯の化石が見つかったので、子どもたちの大好きな恐竜化石を全面に出して誘致活動をすることも必要だと思います。また、岩手全体をイーハトーブ（ドリームランド）とみなした宮沢賢治は全国に多くのファンがいるので、体験学習の中に宮沢賢治の自然観との接点をアピールし、それぞれのフィールドに関連した宮沢賢治の童話の読み聞かせをすること等も、より多くの学校に参加していただくためには効果的ではないかと提言させていただきました。

長期的な取組として、地元の子ども全員が体験学習に参加できる手立てを考え、自分たちの住む久慈市の自然と人々の暮らしを理解していただくことを挙げさせていただきました。このことによって、子どもたちと先生、親との会話が生まれ、地域全体にエコツーリズム、環境教育に関する意識が高まると考えています。久慈市の素晴らしさを認識することによって、外へ出た子どもたちの一部でも久慈市へ戻り、自ら仕事を作り出し、生活することを考えるようになる可能性が出てくるのではないのでしょうか。鹿児島もそうですが、地方の過疎化が進む昨今、素晴らしい理念で体験学習を進めても、受け入れる側の高齢化によって継続が困難になることが多いと思います。若い人を育て、これからの地域の活性化に寄与していただくために、十年、二十年先を見据えた取組が望まれます。

ガイド人材育成のために、岩手県でエコツーリズムに理解のある講師を招き、講演会や勉強会を定期的に行うことが大切であることを挙げさせていただきました。講演会や勉強会に参加したガイド・インストラクターの皆さんが感動し、周囲の知人を誘うようになれば人材も増え、中味の濃いガイドができるのではないのでしょうか。久慈市では当然行われていることだと思いますが、人の輪を更に広げることによって、久慈市の取組がより深いものになると思います。エコツーリズムに理解のある岩手大学、岩手県立大学の先生を紹介させていただきました。また、

岩手県立博物館には17名の学芸員、12名の解説員がおられます。多くの県立博物館では学芸員資格を持たない小中高の教諭が数年間、博物館に勤務していることを考えれば、岩手県立博物館との連携は重要だと思います。これらの方々以外にも岩手県には素晴らしい教育研究活動を行っている方がおられると思います。予算が厳しいことを承知しておりますが、より良い体験学習にしていくためにも講演会や勉強会を開催し、人の輪を広げることが大事だと思っております。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

久慈市の自然の素晴らしさは勿論ですが、お会いできた皆さんが魅力的な人ばかりでした。昭和58年から畜産を通じて首都圏との交流や、昭和60年に開村された「バッテリー村」のグリーン・ツーリズムの取組を始められたこととお聴きして、感動致しました。山形村時代の取組を発展させ、これまで積み重ねられて来たふるさと体験学習協会の「いわて久慈-こころの体験」は、今の日本で忘れ去られようとしている、人は大地に生かされているということを多くの子もたちに知っていただくための素晴らしい取組です。私の住む鹿児島もグリーン・ツーリズム、エコツーリズムが芽生え、活動が目に見えるようになりました。久慈市の取組を鹿児島島の仲間にも伝えたいと思います。久慈市の「いわて久慈-こころの体験」が途絶えることなく発展していくことを祈念しております。

